

インドネシア・ジャカルタで洪水の追加調査を行いました(2013/8/24-30)

テーマ：ジャカルタ水害調査
 場所：インドネシア・ジャカルタなど

2013年1月15日～18日にかけて、インドネシアの首都ジャカルタでモンスーンにともなう豪雨により大規模な洪水氾濫が発生しました。災害科学国際研究所では、この洪水に対して緊急水害調査を2月に実施し、ジャカルタ水害は、『地球温暖化』、『地盤沈下』、『上流域の都市化』、『都市排水能力の不足』、『土砂・ゴミの水路への堆積による洪水疎通能力の低下』など様々な要因が複雑に絡みあい生じていることを、明らかにしました。

呉修一助教（災害リスク研究部門）および福谷陽助手（寄附研究部門）は、本水害の更なる情報収集をはかり現地行政組織や大学などとお互いの情報や知見を共有することを目的とし、追加の洪水調査を8月24日～30日に実施しました。

現地調査では、バンドン工科大学、ボゴール農科大学研究所、京都大学東南アジア研究所ジャカルタ駐在事務所、インドネシア国家防災庁、インドネシア公共事業省水資源総局、JICA ジャカルタ事務所、MAIPARK、東京海上ジャカルタ事務所などを訪問し我々の最近の研究成果を紹介するとともに、様々な意見交換を通じた情報やデータの収集・共有を行いました。また、ジャカルタ洪水で重要な役割を果たす水門やポンプ場などの水工施設の視察も行いました。更に、バンドン工科大学ではジャカルタ洪水緩和対策案の効果検証のための水理実験施設を見学し、その詳細や効果などに関して説明を受けました。

今後、本洪水に関する解析を進め、様々な情報を国内外に発信していく予定です。



カトランバの水門管理人への聞き込み後、記念撮影



ボゴール農科大学研究所での打ち合わせの様子



マンガレイ水門（チリウン川）に堆積するゴミの様子



カレット水門（西排水路）に堆積するゴミの様子



視察したカトランパ水門（チリウン川上流）



カトランパ水門直上流の水位観測テレメトリーシステム

（このカトランパ地点での水位に応じてジャカルタに洪水警報が伝達）



バンドン工科大学での実験の詳細を聞く Farid 博士



視察したブレイットポンプ場（中央排水機場）

（東排水機場は急ピッチで再建造中（写真右手工事現場））

文責：呉 修一（災害リスク研究部門）